

ライオンズクエストプログラムの紹介

1 ライオンズクエストプログラムとは

ライオンズクエストプログラムとは、社会奉仕団体「ライオンズクラブ国際協会」とアメリカの教育機関「クエストインターナショナル」が協力して創りあげた、ライフスキルを育成するための教育プログラムです。

2 ライフスキルとは

ライフスキルとは、主に次の3つです。

- 自分らしさを大切にしながら多くの人とうまく関わるためのスキル
- 怒りや悲しみなど、様々な困難を乗り越えるためのスキル
- 積極的に社会に関わり、自分の力を創造的に生かすためのスキル

具体的には、主に次の9つのスキルが含まれています。

- ①自己規律・責任感・自信を形成するスキル
- ②他者と効果的にコミュニケーションを図るスキル
- ③愛情や態度を上手に表現するスキル
- ④家族や友人との好ましい関係を強めるスキル
- ⑤問題解決や健全な意思決定を行うスキル
- ⑥仲間からのよくない誘いや薬物等のすすめをきちんと断るスキル
- ⑦批判的に物事を考えるスキル
- ⑧目標設定とその達成に向けて計画的に実施するスキル
- ⑨自分の力を、他者のためや社会のためにいかすスキル

3 ライオンズクエストプログラムの主な内容

プログラムには「小学生版」と「思春期版」があります。

- 小学生版（対象：小学1～5年生） 全5単元
- 中学生版（対象：小学5年～中学生）全8単元（7単元＋まとめ単元）

具体的な単元は以下の通りです。

【小学生版】

- ①みんなはこの学校のなかまだよ
- ②なかまとともに大きくなろう
- ③正しい「けつてい」をする力を育てる
- ④やくぶつにかかわらないで大きくなろう
- ⑤あなたとわたしをたたえよう

本校では、これらの単元の中から主に3つの単元を選んで実施しています。

【思春期版】

- ①十代のみんな、思春期へGO！
- ②本当の自信とコミュニケーション力の形成
- ③心の成長と感情のコントロール
- ④友人関係の改善
- ⑤家族の絆の強化
- ⑥健康への道を選ぼう
- ⑦人生の道のみ
- ⑧（まとめ）可能性の追求

須玖小学校のライオンズクエストプログラム

1 本校におけるライオンズクエストプログラム実施の目的

本校がライオンズクエストプログラムを実施する目的は以下の2つである。

- 道徳教育で育むべき道徳性のうち、道徳的な判断力、心情、実践意欲や態度をさらに高め、具体的な道徳的行為を実現するためのスキルを身につけさせていく。
- 学級における望ましい人間関係づくりを促し、健全な学級集団を形成する。

本校は、開校当初から、道徳の時間（現 特別の教科 道徳）の授業づくりや学校行事等を通して道徳性の育成に力を入れてきた。ライオンズクエストプログラムは、子どもたちが身につけた道徳性（特に道徳的な判断力・心情・実践意欲や態度）を発揮し、望ましい道徳的行為を実現する際に役立つスキルを学ぶことができる。

また、人間関係を円滑にするためのスキルであるため、学校生活で多くの時間を過ごす、所属学級における児童同士の関係改善や良好な関係づくりに役立てることができる。

子ども達は集団の中で、

①安全で安心できる集団づくり（仲間の中の自分・仲間のおかげでできたという意識）

②苦手なことができるようになる（モデルに助けられた自分・モデルになれた自分）という2つのことが満たされると、「意欲・前向きさ・やる気」が培われていく。子ども達が本来もっている「よりよく生きたいという思い」（意欲・前向きさ・やる気）を自分から前に進めるために、「安全・安心な環境」と「困難を乗り越えるコツ」を大事にしながらライオンズクエストプログラムを進めていくことで、望ましい関係を構築することができる。

2 本校が実践するプログラム内容とカリキュラム

(1) 学級活動（ライオンズクエスト）

本校では、児童の実態や学年の系統性等を考慮して、主に良好な人間関係の構築に役立てることができるスキルを身につけるために、各学年に次の三つの単元を取り入れて実践を行っている。
(本要録 P43 参照)

○仲間とともにおおきくならう (小学生版 単元②)

→友だちとの関わり方に関するスキルを身につける

○正しい「決定」をする力をつけよう (小学生版 単元③)

→合意形成や意思決定に関するスキルを身につける

○あなたとわたしをたたえよう (小学生版 単元⑤)

→思いやりや感謝の気持ちを表現するスキルを身につける

* 5年生と6年生は、「思春期版」から一部分を取り込んで、単元を構成している。

これらの内容は、特別活動で身につけさせたい資質や能力の3つの視点「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」と深く関わっており、本校では学級活動として実践している。学級活動の内容としては「(2)イ よりよい人間関係の形成」または「(3)ア現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成」に深く関わっている。

(2) 特別の教科 道徳（道徳クエスト）

本校では、「特別の教科 道徳」の授業の後半（価値の主體的自覚以降）に、ライオンズクエストプログラムの一部を取り入れた独自の授業「道徳クエスト」を実践している。

道徳クエストは、次のように構成している。

- 下学年（1～3年生）・・・90分授業（45分×2コマ）
 - ・前半は、教材文（資料）を活用して価値内容に対する自分の考えを深める。
 - ・後半は、ライオンズクエストプログラムを取り入れて、価値内容に関連するスキルを学ぶ。
- 高学年（4～6年生）・・・60分授業（1コマ）
 - ・教材文を活用して価値内容に関する自分の考えを深めたあとに、ライオンズクエストプログラムの一部を取り入れて、関連するスキルを学ぶ。

3 学習の流れについて

学級活動および道徳クエストは、以下のような学習展開を基本としている。

【学級活動】	【道徳クエスト】
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">みつける</div> <p>○本時のスキルにつながる事例と出会う。</p> <p>○本時のめあて（身につけるスキル）をつかむ。</p>	<p style="text-align: center;">（前半）道徳</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">みつける</div> <p>○主題に対する関心を高め、学習を方向づける</p> <p>○ねらいとする価値につながるめあてをつかむ。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">つなげる</div> <p>○スキル（情報）を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で ・グループや全体で 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">みいだす</div> <p>○資料をもとに、ねらいとする価値について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループや全体で
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">練習する</div> <p>○スキルを練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で ・グループや全体で 	<p style="text-align: center;">（後半）ライオンズクエスト</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">練習する</div> <p>○資料から離れ、学んだ価値を行為につなげる。（情報）</p> <p>○学んだ価値をふり返り、実践につなげる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">ふり返る</div> <p>○本時をふり返り、自己決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学び ・スキルの生かし方 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">ふり返る</div> <p>○学んだ価値をふり返り、実践につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学び ・スキルの生かし方

4 授業づくりの留意点

授業では、「知識が行動に結びつく」ための手伝いを、プログラムを通して行っていく。子ども達に変化が見られるのは、自分自身による気づきがあったときである。そのため、子ども達を感じる安心・感謝・楽しさ・驚きなどにより心を動かすこと、感情を動かすことを大事に授業づくりを行っていく。1時間の授業の中で、

- 自分で何かをしていくこと
- 仲間と共有しながら進めていくこと
- 自分にとってどんな意味があるか考えること

を意図的に組み入れていく。

特に、以下の四点を大事にして授業づくりを進めている。

(1) 児童の活動を中心とした授業づくり

- ・一人ひとりに発言や行動の機会を与える
- ・決まった言い方の中での答え方で安心して発言できるようにする
- ・役割分担を偶然的に決め、役割（リーダー・道具係・記録係・発表係・時間係）を与えることで責任を果たす機会を与える。
- ・だれとでも活動できるようにするために、意図的でないグループ分けをする。

(2) 教師が留意すること

- ・オープンな聞き方（開かれた質問） 答え方への配慮，答えやすい問い
（閉じられた質問：「はい」「いいえ」を求める，「どちらがいいですか」）
（開かれた質問：「あなたはどう思いますか」「Aと比べてBのいいところは？」）
- ・パラフレーズ
一つの言葉を別の言葉で言い換えること
（児童の「前向き」という発言に対し、教師が「プラス思考とも言われているね」と返すことで、児童の発言内容を確認し、全体で共有できる。）
- ・I Message（アイメッセージ）を使った伝え方
例えば、「そう生かしてくれたら幸せだ」「どう使ってもらったら嬉しい」
- ・待つ時間の確保（最低でも7～10秒は待つ）し、子ども達がしっかりと考えられるようにする。
- ・多様な答えを受け取る（答えの評価や判断，批判はしない）

(3) ぶり返りの3つステップ

ぶり返りの例

What（何をした？）…私は_____（行動）_____を学んだ。

So what（それで何を感じた？わかった？）…私は_____（感情）_____に驚いた。

私は_____（思考）_____ではないかと思った。

Now what（これからは？）…私は_____（応用）_____していこうと思う。

「学びの確認→心の動き→自分のこれから」をぶり返ることで、子ども達が実際の生活の様々な場面でスキルが使えることを実感させる。

(4) その他

- ・ロープレイについて

ロープレイを行う目的、方法をはっきりと伝える。また、必ず最初に教師が見本を見せ、適切なスキルの使い方を学ばせる。好ましくない状況は子どもにはさせない。

- ・エネジャイザー（元気が出る活動）

授業内容の紹介、授業のはじめのサインなどの目的をもって、子ども達がテンポよく楽しくできる簡単なレクリエーションを取り入れる。さらに授業の始まる前は導入において行うことで安心して活動できる集団であることを確認することができる。

第6学年 学級活動学習指導案

授業者 第6学年2組 高群 愛

1 題材名「友人関係の改善—自己主張する」(テーマ:仲間とともに大きくなろう) 学級活動(2)イ

2 本題材の考え方

本題材の主テーマである「なかまとともに大きくなろう」は、他者と力をあわせて活動することや、うまくコミュニケーションをとるために不可欠な、対人関係スキルの強化に焦点を当てている。各授業では、これらのスキルを学び、練習し、活用するための様々な場面を設けている。具体的には「互いを尊重する健全な友人関係を形成し、強化する方法」「仲間の圧力を認識し、立ち向かう方法」など以前に学習したコミュニケーションスキルを強化する内容になっている。また、良好な人間関係の基本である「協力」を意識させるために、グループ活動を通して、自分に与えられた役割を果たし、仲間と力を合わせて取り組む活動を位置付けている。仲間と協力してスキルを実践し、失敗すればその原因を話し合い、改善していくというプロセスを通して、新しいスキルを身につけていく。

本題材「友人関係の改善—自己主張する」においては、友達からの好ましくない圧力に立ち向かうためにスキルとして「はっきりタイプ」のよさを理解し、実際に使ってみる活動を通して、仲間からの好ましくない圧力に対処しようとする態度を身につけていくことをねらいとしている。

仲間からの好ましくない圧力に対して3通りの方法がある。1つ目の「弱気タイプ」とは、相手の言いなりで抵抗しない方法で、相手がさらによくない誘いをしてくる可能性がある。2つ目の「けんかタイプ」とは、威圧的に言葉で攻撃をする方法で、相手と喧嘩になったり、相手を傷つけたりする可能性がある。3つ目の「はっきりタイプ」とは、はっきり言いたいことを穏やかに伝える方法で、相手を侮辱することがないので、相手も納得しやすい方法である。

そこで、本題材では、仲間からのよくない圧力に対応するスキルとして「はっきりタイプ」のよさを実感させ、伝え方を身につけさせていきたい。そのために、まず「つかむ」段階では、自分にされて嫌なことを伝えるには単に伝えるだけでなく、どのように伝えるかが大事であることに気付かせるとともに、どのように伝えるか考えるというめあてをつかませる。

「つなぐ」段階では相手から嫌なことをされた時の対応として「弱気タイプ」「けんかタイプ」「はっきりタイプ」があることや意味を知り、「はっきりタイプ」の良さについて話し合う。

「練習する」段階ではいくつかの場面を提示し、各グループでどのように「はっきりタイプ」で対応するかシミュレーションを行う。その後、練習した結果を他のグループに紹介し、どこが「はっきりタイプ」かを話し合わせる。

最後に「振り返る」段階では、本時の学習を振り返り、なぜ「はっきりタイプ」が重要なのかを確かめるとともに、今後、友達との関係改善を推進していこうとする態度を育てる。

3 本時の目標

- 「弱気タイプ」「けんかタイプ」「はっきりタイプ」の違いを知り、「自己主張的対応」のよさを理解する。
- 「はっきりタイプ」を使って、仲間からのよくない圧力に対応する方法を考える。
- 仲間からのよくない圧力に対応するためのスキルを活用して、よりよい関係を創ろうとする態度を身につける。

4 準備 提示資料(ロールプレイ場面)(状況カード)、CD、CDラジカセ、ワークシート

5 学習過程

段階	学習活動と児童の反応	指導上の留意点
みつける	<p>1 問題の場面をもとに、本時のめあてをつかむ。</p> <p>(1) 友達同士のやりとりのロールプレイを見て、問題点を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・断りたいけど、難しい。 ・強い口調で断る。 <p>(2) 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなスキルがあるのだろう。 	<p>○ 相手から嫌なことをされたときに、そのことが嫌だとはっきり示すときは、単に伝えるだけでなく、どのように伝えるか学習することを知らせる。</p>
<p>めあて 悪い誘いに対して上手に断る方法を考えよう。</p>		
つなげる(情報とスキル)	<p>2 解決するスキルについて話し合う。</p> <p>(1) 仲間からのよくない圧力に対応する3通りの対応の仕方を、ビデオを見ながら1つずつ確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【弱気タイプ】 相手の言いなりで抵抗しない。</p> <p>【けんかタイプ】 けんかみたくて威圧的。</p> <p>【はっきりタイプ】 はっきり伝えているが、穏やか</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・弱気タイプは、おどおどしているな。 ・けんかタイプは、けんかみくだな。 ・はっきりタイプは、言葉使いが優しいな。 <p>(2) どの対応が最も効果的か、その理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はっきりタイプは理由をきちんとやっているから、納得できる。 ・弱気タイプは結局断れない。 ・けんかタイプは仲が悪くなる。 	<p>○ 状況を把握しやすくするため、事前にビデオに撮ったロールプレイを上映する。</p> <p>○ ロールプレイを以下の視点で確認させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・態度や目線 ・言葉使い ・相手の反応 <p>○ はっきりタイプが最も効果的な断り方であることに気付かせる。</p>
練習する	<p>3 「はっきりタイプ」で、悪い誘いに対する断り方を練習する。</p> <p>(1) グループで練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校のきまりを破ることになるから、ぼくはやめるよ。 ・法律違反だから、私はしません。 <p>(2) 全体で発表する。</p>	<p>○ 「はっきりタイプ」は、相手をけなすことなく、はっきりと自信をもって拒否することであることをおさえる。</p> <p>○ 好ましくない児童の役割はお面や CD を使わせる。</p> <p>○ 全体での発表では、好ましくない児童の役割を教師が演じる。</p>
振り返る	<p>4 振り返りをして自己決定する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・【弱気タイプ】【けんかタイプ】【はっきりタイプ】の違いは何ですか。</p> <p>・はっきりタイプはなぜ重要ですか。</p> <p>・学んだことを、どのように活用できますか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・弱気タイプとけんかタイプは断れなかったり、けんかになったりするけど、はっきりタイプは相手も納得できる。 ・はっきりタイプは理由を言うし、穏やかだから上手に断れる。 ・誘われたら、今日練習したように断りたい。 	<p>○ 以下の内容を振り返らせ、実践への意欲付けを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容から、自分が学んだこと。 ・自分が感じたこと、興味があったこと。 ・スキルの活用(生かし方)

第5学年 道徳・ライオンズクエスト学習指導案

授業者 第5学年1組 中野 文

1 主題名 温かい家族 【C-15 家族愛，家庭生活の充実】

2 教材名「お父さんのお弁当」（東京書籍）

3 本主題の考え方

本主題は「家族の幸せを考え，進んで役立とうとする心情を育てる」ことと，高まった心情をもとに「家族とうまくいくためのポイントを知り，どうやったら家族とうまくいくのか考え取り組みを決める」ことをねらいとしている。中学年の「家族の一員として家庭生活上に積極的に関わろうとする」から，本学年ではさらに，自分に愛情をもって育ててくれた家族に対して，尊敬や感謝を込めて家族の幸せのために自分には何が貢献できるかを考え進んで役立つことをしようとする心情を育てていくことが大切であると考え。高学年のこの時期は，家族に支えられて生活していることは理解し，感謝の気持ちをもっている。しかし，日ごろの生活で感謝の言葉を伝えたり，感謝の思いを表現したりするには至っていない。家族の支えがあって自分の生活が成り立っていることを前提に，家族と上手くいかないときの気持ちの持ち方や行動の仕方を考え今後の家族との向き合い方を見つけさせたい。

学習前半では，教材を用いて価値理解を図る。本時で用いる教材「お父さんのお弁当」は主人公ぼくが，お父さんとの関係がぎくしゃくしているため，なかなかいい関係を築けない中で，お父さんから作ってもらった遠足の弁当から父親の愛情を深く受け止める。ぼくは今まで父親に対して抱いていた感情から一転して，自分に向けられた愛情を知り，父親との関係を見つめなおす。ぼくやお父さんの姿から，自分も家族に支えられ生活していることに気づき，家族との接しかたを見つめなおすことができると考える。

学習後半では，教材により高まった心情をもとに，家族とうまく接するための6つのポイントを知り，自分自身の家族との今後の接し方を見つめることができると考える。まず，ぼくはお父さんとのように関係を築けばよかったのか，今後どのように接すればいいのかを考え，家族とうまく接するための6つのポイントをまとめていく。次に6つのポイントを活用し，家族とどのように接していくか考え家族に感謝の気持ちを伝える練習をする。最後に本時の学習を振り返り，さらに，家に帰って家族にどのような話をするかを考えることで，家族とうまく接するための6つのポイントを実践していこうという意欲を育てる。

4 授業のねらい

- 家族の幸せを考え，進んで役立とうとする心情を育てる。
- 家族とうまく接する6つのポイントを活用して家族との接し方を考えることができる。

5 準備物

提示資料（道徳挿絵），（家族とうまく接する6つのポイント），ホワイトボード，マーカー，ワークシート

6 学習過程

学習活動と主な発問, 児童の反応	指導上の留意点
<p>みつける：主題に対する子どもの興味・関心を深め、ねらいとする学習への方向付けを行う。</p>	
<p>1 自分の親子関係や役割について話し合う。 ○両親はあなたにとってどんな存在ですか。 ・大切な存在 ・うるさいこともある</p>	<p>○プラス面もマイナス面も引き出し、家族とうまくいかないときどうすればいいのか問題意識を持たせる。</p>
<p>めあて 家族について考えよう。</p>	
<p>みつめる：資料をもとにねらいとする価値について話し合う。（価値の追求・把握）</p>	
<p>2 教材をもとに話し合う。 ○お父さんのことを普段どう思っていたでしょう。 ・いつもうるさい・もっと仲よくしたい ○お父さんがパンを食べたと知ったとき。 ・どうしてそんな勝手なことをするんだ。 ◎なぜお弁当がずっしり重く感じたのでしょうか。 ・ほくのことをすごく考えてくれていると分かったから。</p>	<p>○家族に腹を立てたり、ないがしろにしてしまったことはだれしもしもあることに共感させる。 ○家族が自分のことを理解してくれなかった時の気持ちに共感させる。 ○お父さんの思いを受け止めることができた主人公の心情を分析的に考えさせる。</p>
<p>みいだす：資料からはなれ、学んだ価値について自己をふりかえる。（価値の主體的自覚） ライオンズクエストプログラム（情報・スキル・練習）</p>	
<p>3 多くの家族が直面する問題について、考える。 ○資料を読んで問題点と解決方法を話し合う。 ①問題点・ありがとうを言わなかった。 ②解決策・お父さんの仕事について理解する。 ○家族うまくいくためのポイントを確認する。</p>	<p>○資料から、問題点と解決策を話し合い家族とどうすればうまくいくのか考える。 ○解決策の中から、家族とうまくいく為のポイントをまとめる。</p>
<p>①自分と暮らすことは簡単ではないことを覚えておく。 ②自分の欲しい物がいつも手に入るわけではない。 ③家族に対して1日1回「ありがとう」④少なくとも週1回、家族に何かいいことをしよう。 ⑤親にアドバイスをもらおう。 ⑥共感する気持ちを持とう。</p>	
<p>○これから家族とうまくいくために取り組んでいきたいことを考える。 ・週1回お風呂掃除がしたい。</p>	<p>○家族とうまくいくためのポイントにそって自分の実行できそうなことを考え今後の生活につなげる。</p>
<p>あたためる：学んだ価値について、これからの実践への意欲づけをはかる。 ライオンズクエストプログラム（振り返り）</p>	
<p>4 本時の学習を振り返る。 ○これから家族とうまくいくためにどんなことに取り組みたいですか。 ○家で家族になんと言いたいですか。</p>	<p>※ライオンズクエストのWhat? So What? Now What? を使って学習の振り返り、これから家族とよい関係を作ろうとする意欲を持てるようにする。</p>